

関音研長野大会だより

— 第2号 —

発見！音楽のオモシロさ！

発行：長野大会実行委員会事務局

～音楽科における個別最適な学びと協働的な学びを通して～

～事前授業を終えて～

♪石川武大会長より♪

「めっちゃオーケストラみたい！」



6月から7月の事前研究会お疲れさまでした、それぞれに良さと課題を確認して本番に向けて再スタートを切ったところだと思います。苦しい時期ですが、研究の先生方のお支えで授業者の力になっていただきたいと思います。

すべての授業を参観できた訳ではありませんが、事前研究会で心に残った場面を2つ紹介します。

真島小の授業の終末、振り返りの場面でUさんが「変化ばかりだと面白くないし、ずっと重なりがあっても面白くない。変化や重なりをちょうど良いバランスでいれることで、面白くてまとまりのある音楽になる」と発言しました。この授業で田村先生が子どもたちに願った主眼を達成した言葉でした。ここまで教師の願った事をストレートに語った振り返りの言葉を聞いたことがありません。発言を聴きながら思わず嬉しくなりました。重ね方を考えてアンサンブルを工夫したら、今までと違うもっとオモシロい音楽になった、そのことを自覚する瞬間が授業の中にありました。この発言を引き出した授業者の田村先生に **bravo** です。真島小学校の授業研究会では、研究部会の先生方が同じリズムアンサンブルの教材で授業をそれぞれの学校の子どもたちに合わせて行った時のお話をされていたのが強く心に残っています。研究部会の中で授業者の先生を真ん中において、子どもと素材を吟味する。その時の研究部会の先生の言葉は本当に価値のある言葉であったと思います。授業者と子どもたちの関係性で授業は成り立っていますが、それをさらに支える研究部会の皆さんの主体的な取り組みにも感謝です。素晴らしい部会だと思いました。

また、附属長野小の加藤先生の授業では、旋律の重なり方が変わると音楽が広がっていくオモシロさを発見した場面に立ち会うことができました。子どもたちは自ら活動しながら追求を進める中で、重なり方の変化に物足りず他のグループと合同で演奏を始めた場面でした。旋律が重なり合っていく、その音の変化に耳を澄ませながら演奏を続けていくと、その瞬間が訪れました。重なる音の変化に満足そうに笑顔で演奏を続け、演奏が終わった瞬間に「めっちゃオーケストラみたい！」と目を輝かせて大きな声で発した一言は、嬉しくて言いたくなって発せられた心からの言葉でした。つい言いたくなっちゃった感動の瞬間が授業中に訪れたのです。まわりの友達もその感じに共感した様子でうなずいたり「オーケストラみたい」と繰り返したりして、演奏の余韻を味わっているようでした。子ども達はこの場面で旋律の重なるオモシロさ！を感じ取っていました。このような場面は授業中にあちこちのグループで見られ、こんな授業がしてみたいと思いました。

さあ、いよいよ研究会が迫ってきました。授業者と子どもたちがどんなワクワクを感じ取ってくれるか楽しみにしています。8月1日からは申し込みが始まりました。HPの挨拶に『音楽の時間は、子どもたちと一緒に毎時間音楽のいろんな「オモシロさ！」を探し合い、出会い、分かち合う時間だと思います。そんな素敵な提案ができれば「オモシロい！」と思います。この長野大会を、コロナから立ち上がる第一歩の大会として、音楽の力で人と人とのつながりを復活させましょう。目の前の子どもたちのため、今日学んだ音楽が将来その子を支える杖になることを信じて。』と書きました。そんな瞬間に立ち会える公開になればいいなと思います。授業者の先生方は今が一番苦しい時だと思いますが、授業作りを楽しみましょう。

♪授業者より（事前授業を終えて）♪

小学校部会 【歌唱】 通明小学校 授業者 夏目 昌典

事前題材：私たちの「行こう」を表現しよう
事前教材：「行こう」（150周年記念の合唱曲）



まだ、経験が浅いため、研究会を通して様々な先生方からアドバイスを頂けるのが、私にとってとても貴重な学びとなっております。ありがとうございます。11月の授業では、「われは海の子」を扱いたいと考えています。同じ曲でも、解釈によって様々な表現ができるというオモシロさを子ども達に感じてもらいながら、歌唱力も高めることができるような授業にできたらと思っています。

小学校部会 【器楽】 附属小学校 授業者 加藤 朝子

事前題材：いろいろな旋律が重なり合うひびきを感じ取ろう
事前教材：「リボンのおどり」



事前授業を終え、子ども達と、共に音楽の楽しさを味わうことができとても嬉しく思っています。音楽を聴けば、自然と身体が動き、たくさんのことを感じ取ることができる子ども達と、更にレベルアップした合奏にするために共に悩み、考えながら授業が出来たら嬉しいです。関音研では、自分たちが練習している合奏曲を、更により曲にするために、みんなで聴きあい、話し合い、工夫しようという授業を構想しています。子ども達の自由な発想と前向きに取り組む気持ちで、「キリマンジャロ」を素敵に演奏したいと思います。

小学校部会 【音楽づくり】 真島小学校 授業者 田村 由依

事前題材：リズムのつなげ方や重ね方の特徴を感じ取ろう
事前教材：「楽しいマーチ」



事前授業では「『変化だけ』だとよくわからない。『反復だけ』だとつまらない。『反復と変化』があると、曲はまとまるし面白くなる」と気づいた子供たちが『反復と変化』の仕組みを使って、まとまりのある2声のリズムアンサンブルをつくりました。11月の研究授業では、そこに打楽器の音色を加え『音楽の縦と横との関係』を学んで、3声の打楽器アンサンブルをつくります。音のつなげ方や重ね方を工夫しながらつくる音楽には、どんなよさや面白さが生まれるのか。子供たちと共に、音楽づくりのオモシロさを追求していきたいです。

小学校部会 【鑑賞】 朝陽小学校 授業者 浅井 美咲

事前題材：せんりつのとくちょうを感じ取ろう
事前教材：「愛のあいさつ」「ピチカートポルカ」



事前授業では、子供たちが音楽を感覚的に捉えている姿や、用意された資料を選択して楽曲のお気に入りポイントを伝えている姿から、子供たちの音楽の学習における成長を感じました。題材の最後の授業でしたが、学習問題に対する一人一人の考えの共有の仕方は課題に残りました。11月の授業では、事前授業から見てきた課題や、研究会で先生方から教えていただいたことをもとに、音楽のオモシロさを子供たちと共に追究し、楽しく授業ができたらいいなと思っています。よろしくをお願いします。

中学校部会 【歌唱】 附属中学校 授業者 志賀 浩介

事前題材：情景を思い浮かべながら、言葉を大切に合唱しよう
事前教材：「花」



事前授業の最後の場面で、あるグループに歌って発表してもらいました。情景を要素と結びつけて見事に表現した演奏でした。その演奏を聴くことで他のグループも感化され、最後の通しの合唱はより充実した表現になりました。生徒たちが音楽の”オモシロさ”を発見した場面だったと思います。本番の授業は、生徒たちが「Amazing Grace」のハーモニーの美しさに浸りきり、音楽の”オモシロさ”を発見していける授業にしたいと思っています。

中学校部会 【器楽】 犀陵中学校 授業者 堀 未央

事前題材：イメージをもって演奏しよう～テンポの工夫を通して～
事前教材：「聖者の行進」



あらためて生徒と音楽と、そして自分と向き合う機会をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。自分と音楽を結ぶルーツであるギターの「音色」。授業を通して生徒にもそのよさを感じてほしい！と敢えてクラシックギターを選びました。技能だけにとらわれず、みんなでそのよさを感じて楽しみながら、「違う曲でもできそうかな」「クラシックギターが弾ければエレクトリックギターも弾けるようになるかも！」といろいろな夢をふくらませ、生涯にわたって音楽を身近に感じられる術の一つとなるような、そんな授業を目指します。

中学校部会 【創作】 飯綱中学校 授業者 稲垣 典子

事前題材：「百人一首にメロディを♪」
事前教材：百人一首の句 YAMAHA「VOCALOID」教育版



事前ではお気に入りの百人一首に旋律を付ける学習で、自分の表したいイメージと関わらせて「VOCALOID」で旋律の創作をしました。本番では、飯綱の四季のイメージと音の特徴や重なりを関連させて、駅メロをつくる学習を構想しています。赤く艶やかに実るりんごは、いつも飯綱の中心にあり、りんごの実が赤くなると秋を感じます。そんな風景を駅メロにします。11/17は、まさにりんごの一番おいしい時期。是非飯綱中へお越しください。

中学校部会 【鑑賞】 櫻ヶ岡中学校 授業者 海野 妙

事前題材：「動機」のはたらきにより生まれる音楽の雰囲気を感じ取ろう
事前教材：ベートーヴェン「交響曲第5番 第一楽章」



本年度、鑑賞の授業では、「音楽をより深く聴ける生徒の姿」を目指しています。音楽を聴いてただ「いいな」と思うだけでなく、音楽の仕組みや構成、その曲の魅力の秘密がどこに隠されているのかということを考えていくことで、「聴き方の深まり」を一人一人が実感できるような授業を仕組んでいきたいです。関音研では、音楽を追究するオモシロさが生徒や見に来てくださる参観者の方に提案できるよう、さらに研究していきたいと思っています。